

あゆみ通信

VOL. 172

あゆみの会(真宗大谷
派大阪教区第2組同朋
の会推進連絡協議会)
会長 細川 克彦
広報 本持 喜康

盂蘭盆会

浄土真宗のお盆の捉え方は(中略)亡き人を案じ、供養したいという思いは自然なことですが、先祖を供養する私たちの心根は、祖先を敬うことの見返りに除災招福を望み、自分の満足させるための利己的な在り方をしているとも言えるのではないのでしょうか。昔から真宗門徒は、亡き人を「諸仏」といただけてきました。「諸仏」とは、私たちを人間としての真実の生き方へ導いてくださる仏さまです。

つまり、私たちから亡き人への「祖先崇拜」ではなく、亡き人を私たちに「真実に目覚め、真実に生きよ」と呼びかけてくださる「諸仏」といいただき、自身が仏さまの教えに生きるものとなってこそ、本当に亡き人を大事にすることになるのです。

亡き人を案じる私が、実は亡き人から案じられている身であったことに目覚め、あらためて人間として賜ったいのちや生きる意味を問う「聞法の機縁」こそ、お盆なのです。(浄土真宗「仏教・仏事のメナ?」東本願寺出版より)

第2組聞法会8月

日時 8月26日(土) 14:00

会場 光照寺(天王寺区上沙)

講師 広瀬 俊先生

(17組 法観寺住職)

参加費 500円

その他 門徒会費受け付けています。

第2組聞法会「共に学ぶ正信偈」

日時 9月27日(水) 14:00

会場 憶想寺(浪速区恵美須町西)

講師 新田修己先生

参加費 500円

その他 今年最後の聞法会になります。

ご参加ください。



朋友会と合同研修会実施



去る6月25日(日) 午後1時30分より、第2組の青年僧組織「朋友会」と合同の研修会が、阿倍野区の法山寺(藤原憲住職)をお借りして開催し、朋友会とあゆみの会で14名の会員が参加しました。

あゆみの会では、第2組および寺院の興隆を目指す朋友会有志の皆さんと交流を深め、研鑽し合える研修会をと2015年からスタートし、コロナ下の2021、22年をのぞき今日まで開催してきました。以下、

○2015年9月26日 於即應寺
講題「お寺のチカラ」

講師 岸野龍之先生(稱念寺)

○2016年9月28日 於南照寺
講題「仏法とご縁、善知識との出会い」

講師 友澤秀三先生(南照寺)

○2017年9月26日 於稱念寺
講題「仏にお育ていただいて」

講師 藤井真隆先生(即應寺)

○2018年9月2日 於即應寺
講題「お念仏をいただくとは」

講師 池田英二郎先生(宗恩寺)

○2019年9月24日 於即應寺
講題「私と仏法の出会」

講師 喜左上恵子先生(紹隆寺)

○2022年6月29日 於即應寺
講題「出会いの中で気づかされた私」

講師 神保朝成先生(憶想寺)

○2023年6月25日 於法山寺
講題「この身への正しいおまい」

講師 藤原智先生(法山寺)

久しぶりの合同研修で、進行は事務局の本持が、まず開会して真宗宗歌を斉唱しました。続いて朋友会から友澤秀三会長(南照寺)が開会のご挨拶

親鸞のことば

自分勝手に生きる私たちを仏道に向かわせるもの

じねん 自然というは、自は、おのずからという。行者のはからひにあらず。しかれしむということばなり。然というは、しからしむということば、行者のはからひにあらず、如来のちかいにてあるがゆえに(正像末和讃)

しぜん 自然と自然は異なります。自然は私たちが知っている人工的でない海や山などを指す言葉です。一方、親鸞は自然について、本願他力のはたらきだと語ります。

仏さまの教えを信じず、自分勝手に生きている私たちを仏道に向かわせる、そんな阿弥陀さまのはたらきが自然です。そのはたらきは、あなたが気づこうが気付くまいが存在し、あなたに今も呼びかけています。

(名古屋別院監修「人生を照らす親鸞の言葉」より)

私たちの人生の争い、は善と善との争いだ

宮城顕先生の言葉です。

いつも當麻秀真先生(大和高田市 正行寺前住職)から送っていただく寺報「今日のことば」に、九州大谷短期大学の吉元信曉先生の次の言葉がありました。「(前略) 私たちの人生を振り返って見た時、そこには必ず「争い」と言うことが徘徊して離れません。家庭の中においても、国と国との関係でも。

その根底には「私はこれだけ善いことをやったんだ」という私たちの思いがあるのです。それがぶつかり合うのが「善と善との争い」なのでしょう。

私たちの人生において「私はこれだけやった」「私こそが善だ」という私の思いを照らし出し気付かせてくれるはたらき(仏さま)に出会っていくことの大切さ。そのことを教えてくださっているのが、宮城顕先生の言葉なんだと思います」とあります。

世間の常識で、あいつが悪い、こいつが悪いと、人のせいになっている自分がいます。(本)



拶をいただき、早速、藤原智先生の「この身への正しいおもい」という講題でお話いただきました。

先生は、法然上人や親鸞聖人、そして「歎異抄」の言葉等を引きながら、「八正道」の「正念」について話されました。

曰く、親鸞聖人は、著作『教行信証』行巻で、「名を称するに、能く衆生の一切の無明を破し、能く衆生の一切の志願を満てたまう。(中略)南無阿弥陀仏はすなわちこれ正念なりと知るべしと」書かれていると。

また、聖人の『高僧和讃』にも、

「真宗念仏ききえつつ 一念無疑なるをこそ 希有最勝人
とほめ 正念をうとはさだめ
たれ

本願相応せざるゆえ 雑縁きたりみだるなり 信心乱失するをこそ 正念うすとはのべ
たまへ」と、教えられていると。

休憩後は、進行を朋友会の友

澤住職で。

先生を囲んで座談に入りました。先生への質問や、参加者が抱える問題について、意見交換がされました。また、資料にある先達の、臨終を前に書かれた(辞世の)言葉の

「死にとうない、南無阿弥陀仏死にとうないけど、心は明るい」について、「心が明るい」と言うのはどういう状況なのかを話し合ったり、「聞法を聞く」姿勢についてや、特に

参加者Eさんのご主人が不慮の事故で亡くなられ、どういう気持ちで逝かれたかを、聞けなかったことへの苦悩について、住職方から親鸞さんの教

えを踏まえた、かつ、率直な意見が話されました。

講師のお話をきっかけとして、これまで行ってきた合同研修会にして、初めて？積極的な意見交換がなされ、これこそが目指した仏弟子としての、共に支え合い、共に歩む場になったと痛感したのは、自分だけでしょうか。

予定の時間を超えましたが、充実した座談になりました。閉会は、あゆみの会の細川克彦会長のご挨拶で締めくくられ、恩徳讃を皆で斉唱して終わりました。(事務局：本持)

第46回大阪教区 同朋大会に参加する

6月24日(土) 午前10時から難波別院

阿弥陀仏一人として生まれたことの意味をたずねていこう」そして、大阪教区独自のテーマが「私たちは何を求めて生きているのだろうか」でした。教区全体を午前と午後に分け、第2組の門徒は午前の部に参加しました。午前10時に開会、真宗宗歌を斉唱のあと、正信偈同朋奉讃式で勤行し、仏教讃歌「しんらんさま」も。そして、教化委員長の禿信敬輪番からご挨拶があり、引き続き、開催主催者から大会趣旨説明が、「私の生き方を共々にたずねる場にして欲しい」と話されました。続いて同朋の声は、第13組常稱寺ご門徒の藤田明美さんからご自身のお念仏の出遇いを通して「人は決して一人では生きられない」と意見発表がありました。

第2組門徒会とあゆみの 会の合同研修会決まる

日程 9月8日(金) 13:30～

会場 光照寺(天王寺区上汐)

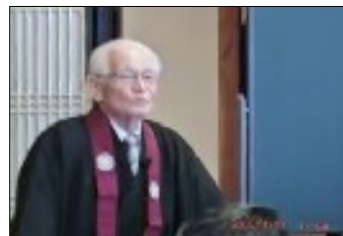
講題 「人間成就」

講師 松井聰先生

(門真市心願寺住職)

参加費 無料

8月初旬にご案内



休憩の後、講師の伊藤元先生(88歳。九州教区・

徳蓮寺前住職)から記念法話がありました。講題は「私たちは何を求めて生きているのだろうか」でした。

先生は、コロナの経験を踏まえ、「今、与えられている恩恵は失ってみなければ分からない」「今、いただいていることに気付くことが出来れば、心が豊かになる気がする」(以上、「南御堂」紙から)と、88歳とは思えない、矍鑠として、最後まで立って話されました。

終わりに、担当幹事から閉会の挨拶があり、恩徳讃を斉唱して解散しました。

(大会趣意から)
私たちは何を求めて生きているのだろうか。

親があり、祖父母があり、
連綿とつながってきた、私のいのち

今だけよければいいのでしょうか

家族、友人、社会、さまざま
なつながりの中にある私のいのち

自分だけよければいいのでしょうか

たった一度きりの誰とも代わることのできない、私のいのち
いのちの重さに違いがあるのでしょうか

